



2018年11月14日

## 豆腐パッケージに入った、ご当地手ぬぐいが誕生！ 「木綿湯布(もめんどうふ)」が“いい風呂の日”に新発売



1716年創業の奈良の老舗、株式会社中川政七商店（所在地：奈良県奈良市 代表取締役社長 十四代 千石 あや）は、豆腐のパッケージに入ったご当地手ぬぐい「木綿湯布（もめんどうふ）」を、“いい風呂の日”である2018年11月26日（月）より日本各地の温泉地にて限定発売いたします。

お馴染みの豆腐の容器に入っているのは木綿豆腐ではなく、“木綿”生地でできた手ぬぐい。日本各地で受け継がれてきた木綿や染めの技法を使い、ご当地の魅力あふれる手ぬぐいとして商品化しました。その土地の温泉地でしか買えない、新しい土産ものです。

全国の温泉にそれぞれ地域色があるように、手ぬぐいに使われる木綿生地も産地によりさまざまな特色があります。また江戸時代には、入浴時に使う手ぬぐいを「湯手（ゆて）」と呼び、身体を拭く道具として愛用していました。

この「木綿湯布」は、かつての「湯手（ゆて）」をご当地の木綿や染工場の製法を生かして商品化し、その温泉地で限定販売する、新しい温泉土産です。第一弾は埼玉県、静岡県、三重県、愛媛県の4県からスタート。そこでしか買えない、その土地ならではのものづくりを、お土産を通じてお届けする「地産地消」モデルを目指し、今後日本全国の温泉地へと展開を拡げていきます。



木綿湯布 各1,000円（税抜き）



## ■商品情報

手ぬぐいには各温泉地の名物が描かれています。また豆腐のパッケージをイメージした容器は、旅先で濡れた手ぬぐいを入れてお持ち帰りできるよう、再利用できる作りとなっています。



### 埼玉県 × 川越手捺染

首都圏からの日帰り温泉が楽しめる埼玉県で作られるのは、川越市で創業70年の老舗染物屋「井上染工場」による「手捺染」と呼ばれる技法で仕上げた手ぬぐい。職人の手で一枚一枚丁寧に染め上げた、美しい発色が特徴です。生産量日本一の鯉のぼりや雛人形など埼玉らしい柄が描かれています。

- ・全3柄
- ・販売場所：玉川温泉、おふろcafe 白寿の湯、おふろcafe utatane

※販売場所により取扱い柄が異なります。



### 静岡県 × 遠州木綿

箱根や伊豆、熱海など人気の温泉地が集まる静岡県で作られるのは、日本三大織物産地の一つ、遠州地方で江戸時代から続く「遠州木綿」。昔ながらの織機と熟練した職人の手によって生み出される木綿は、なめらかで肌に優しい手触りです。富士山や茶葉など静岡名物が描かれています。

- ・全2柄
- ・販売場所：おふろcafe bijinyu 美肌湯



### 三重県 × 伊勢木綿

開湯1300年を迎える湯の山温泉をもつ三重県で作られるのは、江戸時代から250年以上続く伝統の「伊勢木綿」。洗ううちに柔らかくなる特徴をもつこの生地は、現在では「臼井織布」の一軒でしか作ることができない、貴重な手ぬぐいです。温泉地の名物土産や伊勢海老、カモシカが描かれています。

- ・全6柄
- ・販売場所：湯の山温泉、おふろcafe 湯守座、夢古道おわせ

※販売場所により取扱い柄が異なります。



### 愛媛県 × 今治産タオル

「日本書紀」にも登場する日本最古といわれる道後温泉をもつ愛媛県で作られるのは、国内最大規模のタオル産地今治で生まれたタオル地の手ぬぐい。手ぬぐいよりも吸水性に優れ、タオルよりも軽くて薄いため乾きやすいのが特徴です。生地には愛媛名物のみかんや鯛のモチーフが描かれています。

- ・全2柄
- ・販売場所：伊織道後湯之町店、IORI COLOR

## ■温泉地とのコラボレーション募集中



木綿湯布で日本各地の温泉地を盛り上げるべく、商品化や販売にご協力いただけける温泉施設・お土産店様を募集しています。地域のお祭りやイベント時には、お豆腐屋をイメージした専用の国産ヒノキ製リヤカーをご用意。大量の木綿湯布を積み込んだ屋台が会場を盛り上げてくれます。

<お問い合わせ先>

株式会社中川政七商店

広報 佐藤菜摘 080-3464-4622 kouhou@yu-nakagawa.co.jp

〒630-8144 奈良県 奈良市 東九条町 1112-1 URL http://www.yu-nakagawa.co.jp